

令和元年度 第4回「帯広市健康生活支援審議会児童育成部会」議事録

日時：令和2年2月19日（水）19時30分～20時30分

場所：市役所10階第5B会議室

会議次第

1 開 会

2 議 題

- (1) 令和元年度第3回帯広市健康生活支援審議会児童育成部会議事録の確認
- (2) 令和2年度こども未来部当初予算（案）について
- (3) 市の組織再編について

3 その他

4 閉 会

配付資料

資料1

令和元年度第3回帯広市健康生活支援審議会児童育成部会議事録

資料2

令和2年度こども未来部当初予算（案）

資料3

市の組織再編に関する資料

追加資料

予算説明資料（健康生活支援審議会配付資料）

出席委員（19名中15名出席）

成田委員、真井委員、明神委員、樋渡委員、永井委員、  
伊賀専門委員、松山専門委員、宮崎専門委員、佐藤専門委員、鈴木専門委員  
野崎部会員、加藤部会員、下鳥部会員、南出部会員、及川部会員

事務局

広瀬こども未来部長、野澤こども未来部企画調整監、  
郡谷こども課長、星野保育担当課長、戸田課長補佐、  
村木子育て支援課長、金田課長補佐、今青少年課長、三好児童会館長

**令和元年度 第4回「帯広市健康生活支援審議会児童育成部会」議事録**  
**(令和2年2月19日 19:30~20:30)**

<p><b>1. 開 会</b> (事務局)</p>	
<p><b>2. 議 事</b> <b>議題(1)</b>  (事務局)  〈部会長〉</p>	<p>(1) 令和元年度第3回帯広市健康生活支援審議会児童育成部会議事録の確認</p> <p>(資料1の説明) 1月31日に開催した令和元年度第3回帯広市健康生活支援審議会児童育成部会の議事録について内容を確認。</p> <p>修正なしのため、市ホームページへ掲載する。</p>
<p><b>議題(2)</b>  (事務局)</p>	<p>(2) 令和2年度こども未来部当初予算(案)について</p> <p>(資料2の説明) 令和2年度こども未来部当初予算総額は、112億2275万2千円、今年度対比4億3099万5千円、約4%の増となっている。</p> <p>主な増減としては、特定不妊治療費助成事業や障害児サービス提供事業においては、利用者の増を見込んだ予算計上としている。児童扶養手当については、昨年11月から支払回数が増え3回から6回へ変更されることに伴い、令和元年度に限り15ヵ月分を予算措置していたが、令和2年度は12ヶ月分へ平年化されたことにより、2億5千万円程度の減を見込んでいる。児童会館の管理については、科学展示品賃貸借契約期間の満了やトイレ洋式化整備の終了に伴い、700万円程度の減とする。</p> <p>(追加資料の説明) 来年度の児童関係の主要事業は、4事業となっている。</p> <p>私立保育所運營業務については、へき地保育所全6所が認可化及び民間移管することに伴い、全6所給食自園調理の実施と開所時間を11時間へ拡大するほか、川西保育所とことぶき保育所においては、多様な保育ニーズに合わせ、延長保育と0歳からの乳児保育を実施する。このほか、保育士の処遇改善事業等も予算額増の要因となっている。</p> <p>認定こども園等施設給付事業については、私学助成幼稚園5園が施設</p>

	<p>型給付幼稚園や認定こども園へ移行するほか、既存認定こども園の分園新設や低年齢児クラス増設などにより、施設給付費が増加している。</p> <p>児童保育センター運営事業については、女性の就労率の高まりや高学年においても継続的な利用希望が増えていることから、入所児童が増加することを見込み、令和2年4月より、現在の40施設54クラブから59クラブへ受入体制を拡大する。</p> <p>ひとり親家庭等日常生活支援事業については、子育て支援または生活援助が必要なひとり親家庭等に対し、家庭生活支援員を派遣する事業で、就業上の理由により定期利用できる対象家庭の範囲を、未就学児から小学生を養育する家庭まで拡大する。</p>
〔委員〕	来年度へ向けた入所調整や待機児童の状況はどうか。
(事務局)	<p>現在一次調整による入所承諾の結果を通知し、二次調整の作業中。調整作業中のため待機児童の有無は確定しないが、認定こども園への移行により保育枠を拡大したものの、低年齢児を中心とした保育需要は昨年と同様に高い状況にある。</p>
〔委員〕	<p>帯広市は、待機児童対策事業を活用した認可外保育施設への入所により、待機児童の解消を目指す考えかもしれないが、認可外保育施設に対して、必要な受け入れ枠などの情報をいただいていないので、施設としては対応が難しい。</p>
(事務局)	速やかに情報提供できず、大変申し訳ない。認可外保育施設等の民間の力も借りながら、必要とする方に保育を提供していきたい。
〔委員〕	<p>保育所等に入所がかなわなかった保護者は混乱してしまうので、情報提供する際は配慮や工夫をお願いしたい。各保育施設においても保育士の確保は簡単ではないが、可能な限り受け入れについて協力していきたい。</p>
〔委員〕	児童保育センター運営費について、資料2と主要事業の金額が一致しないのはなぜか。
(事務局)	<p>主要事業の資料には、処遇改善や障害児受入れ実績に応じた補助金等が含まれているが、資料2には含んでいなかった（資料2を主要事業資料と同額へ訂正し、ホームページへ掲載）。</p>

<p><b>議題（３）</b></p> <p>（事務局）</p> <p>〔委員〕</p> <p>（事務局）</p> <p>〔委員〕</p> <p>（事務局）</p>	<p>（３）市の組織再編について</p> <p>（資料３の説明）</p> <p>組織の横断的な課題や新たな政策課題へ対応力を強化するため、帯広市は今年度、組織再編に取り組んでおり、現行の１３部から９部へ変更となるなど、４月から新しい体制でスタートする。横断的な支援の強化や相互調整の連携が高まり、市民も利用しやすいように、フロアの配置も検討してきた。</p> <p>こども未来部は、保健福祉部や市民活動部の一部などと統合され、市民福祉部となる。「部」の下には関連性の高い複数の「課」で構成する「室」が設けられこととなる。</p> <p>現在のこども未来部は、こども課・子育て支援課・青少年課・児童会館の４課で構成されているが、児童関係は現在のこども課と子育て支援課のおやこ相談係、公立保育所８所を含めてこども福祉室となる。</p> <p>母子保健を担当している子育て支援課おやこ健康係については、市全体の保健関係を担う健康推進課へ統合され、青少年課は学校教育部、児童会館は生涯学習部、両課とも教育委員会へ異動することとなる。</p> <p>部や担当課が変更となっても、第２期おびひろこども未来プランに掲げている基本目標や目指す姿が変わることはなく、より一層の連携強化を図りながら、子ども・子育て施策の取り組みを進めていく。</p> <p>青少年の健全育成は大切な子ども・子育て事業の一つであり、市全体で取り組むべきもの。青少年課がこども福祉室ではなく教育委員会へ異動することに違和感があり、市長部局で担当することが相応しいと考える。</p> <p>青少年の健全育成に関する事業は教育委員会へ移るが、市全体で取り組むことに変わりはない。今回の再編は、連携力と対応力の強化を目指しており、より連携が高まる体制を検討してきた結果、このような組織となったもの。</p> <p>この組織再編は、北海道も同様に行われるのか。</p> <p>帯広市の組織再編であり、北海道との連動性はない。</p>
--	--

<p>〔委員〕</p>	<p>この組織再編により、職員は削減されるのか。こども福祉室こども課も削減されるのか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>全体で13部が9部となることから、部長職は減ることになるが、組織再編は職員数削減を目的としたものではない。こども課も職員数削減となる予定はない。</p>
<p>〔委員〕</p>	<p>神戸市の児童相談所に深夜助けを求めてきた小学生を、委託業者のNPO法人職員が、保護せずに追い返したという報道があったが、働き方改革により、帯広市でも起こりえることなのかと心配になった。帯広市の状況について聞きたい。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>神戸市の児童相談所は市が運営、帯広市の児童相談所は北海道が運営しており、管轄は十勝管内となっている。帯広市では、児童虐待防止110番を設けて、夜間の相談電話を職員が交代で対応することとしている。</p>
<p>〈部会長〉</p>	<p>児童虐待が増えていると聞く。実際に虐待が増えているのか、報告だけが増えているのかは不明だが、児童相談所等の関係職員は大変な仕事だと思う。</p>
<p>〔委員〕</p>	<p>帯広児童相談所の一時保護指導員として勤務経験があるが、男女のバランスを考慮し、夜勤の場合も複数の職員が勤務している。夜中に小学生が助けを求めてきて、保護せずに帰すことはない。</p>
<p>〔委員〕</p>	<p>今回の報道のような対応が日常的にあるのかと不安になったが、実際の帯広市や児童相談所の体制を聞いて安心した。私達からも実態を保護者等に発信していきたい。</p>
<p><b>3. その他</b></p>	
<p>〈部会長〉</p>	<p>委員の皆さんや事務局から何か報告等あるか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>現在インフルエンザが流行しており、昨年10月から昨日2月18日まで、未就学児の罹患者は延べ373名。小中学校の臨時休校は1校、学年閉鎖は40校、学級閉鎖は101学級。学校も保育所も感染症等に関する施設閉鎖の明確な基準はなく、施設の判断とな</p>

	<p>る。</p> <p>平成21年には新型インフルエンザが流行し、5日間程度、臨時に閉所した施設もあったが、保護者が医療従事者等の場合は、緊急的に保育を実施していた経過もある。</p> <p>現在新型コロナウイルス感染症に関する報道も多くあり、北海道内でも感染者が複数名確認されたとのこと。市としては、国や北海道からの通知等が入り次第、各施設へ情報提供しているが、今後十勝管内や帯広市において感染者が発生する場合も想定しながら、庁内でも情報を共有し、対応について検討している。</p>
<p>〈部会長〉</p>	<p>アメリカではインフルエンザの大流行より死者も多数出ており、手洗いや咳エチケットが基本となるので、各自予防に努めてほしい。</p>
<p>〔委員〕</p>	<p>インフルエンザの予防接種率はわかるか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>帯広市では把握していない。</p>
<p>〔委員〕</p>	<p>費用がかかる予防接種は受けずに、インフルエンザに感染してから、無料の乳幼児医療制度を利用して、病院を受診するという話を聞いた。流行となる理由の一つではないかと不安になった。</p>
<p>〈部会長〉</p>	<p>帯広だけで流行しているわけではなく、帯広だけが乳幼児医療費が無料というわけではないので、インフルエンザ流行の原因ではないと思うが、まずは感染しないための予防が大事。</p>
<p>〈部会長〉</p>	<p>委員の皆さんや事務局から他に報告などあるか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>今年度は、プラン策定や幼児教育・保育の無償化など、例年より多くの議題をご審議いただき、ありがとうございました。来年度は第6期障害者福祉計画策定年度にあたり、障害者支援部会と児童育成部会が合同で、年4回の会議を開催予定なので、来年度も引き続きよろしく申し上げます。</p>
<p><b>4. 閉会</b></p>	